

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月20日

事業所名 はなまる本店 (回答率 8/9)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	88%	12%	その都度見守りを徹底している。	送迎が重なってプレイルーム内の職員が少なくなる時間帯の体制を整えていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%	出勤の職員で最善の配置を考えている。	適切な時と、そうでないときがあり、都度良い配置を職員間で考えて実施している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	75%	25%	角にサポート具を貼ったり対策を取っている。	段差があたり角があるので、視覚的にわかりやすく表示したり、危険が及ばないように配慮に努めている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		毎月の全体会議で業務について話し合っている。	毎月の全体会議で業務改善を図り、都度立てた目標と業務の振り返りを行って改善に努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88%	12%	保護者様の意見を取り入れ、できる限り改善に繋がるように心がけている。	4月からの新学期に向けて早急に周知する機会を設け、業務改善を行っていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		ホームページにて公開している。	職員間で内容を共有し、新年度に活かしていきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	88%	12%		今はまだないが、今後行われることを想定し業務にあたっている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			会社全体での研修をはじめ、職員個々でも研修に参加している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		アセスメントを行い、個別支援計画を作成している。	今後も良い助言や選択肢を増やし支援内容を提供できるようにしていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			年齢別のアセスメントツールを画策するなどの工夫していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			担当者会議を開き、職員間で話し合ってプログラムを立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		前日(前回)に行った療育を共有し、進捗を確認してプログラムを決めている。	気を付けないと固定化してしまう可能性があるため、情報収集を頑張っていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		長期休暇明けは体調や心身面で崩しやすいため、長期休暇は特に意識してスケジュールを組んで支援にあたっている。	全体スケジュールと個別スケジュールの立て方をもっと工夫していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	100%			個々の療育の進捗を確認し、個別活動、集団活動をうまく組み合わせで行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			毎朝のミーティングにてスケジュール、療育担当等確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		終業時に行っている。	共有漏れがないよう、職員間の声掛けを積極的に行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		面談時に保護者様へ伝え活かす為申し込み用紙に記録を取っている。	今後も続け、一人一人の成長をお伝えできるように努めたい。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		半年に1度モニタリングを行い、計画書を作成している。	日頃の様子を共有をもっと行えたらと思うので、連絡事項のみではなく、職員から保護者様への言葉がけを増やしていきたい。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	100%		行えている。	基本的に行っているが日々見直し丁寧な支援を心がけたい。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			人員配置の関係で同席することが難しいことが多かったが、今後は参画していきたい。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		送迎時にトラブルが起きやすい為、長期休暇前は特に確認するように努めている。	連絡が遅れたりすることも無いとは限らないため、送迎者と事業所内の職員の連携を徹底していく。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	50%	50%			該当児童なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%			該当児童なし
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	75%	25%			そのような状況があればいつでも提供できるようにしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%				今のところ助言は受けていないが連携することは大切だと思うので研修等受けていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	12%	88%			他の施設との交流はいまのところない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	12%	88%			参加可能な時は参加しているが予定が合わないことの方が多かった。今後は積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		送迎時やLINEにてその日の様子や療育内容をお伝えしている。		保護者様への伝達を今後も大事にし、信頼関係を築いていきたい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	25%	75%			今後は保護者様との関りをさらに増やしていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				契約時やモニタリング時等に丁寧に伝えるよう心掛けている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		相談があった際は助言を行えている。		今後はさらに機会を増やしていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	37%	63%			保護者会が開催できていなかった為、今後企画していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		何かあれば速やかに対応するように努めている。		苦情がないよう、日ごろから職員一人一人が真摯に業務にあたるように指導していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		イベント案内を毎月作成し、保護者様へお知らせしている。		会報は発行していない為、今後視野に入れていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	100%		SNSの投稿は特に職員一人一人が確認を行い、徹底して業務にあたっている。		室内の児童の目に触れる場所では特に注意し、徹底していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		個々に合うやり方で配慮に努めている。		情報伝達がさらにスムーズにいくよう様々な観点から考えて接していけるようにしたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12%	88%			今までは関りを作ることができなかった。今後、季節のイベント等で交流を図っていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	63%	37%		社内研修という形で職員と周知する機会を設けている。保護者様へ向けた周知を今後徹底していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	75%	25%	年に二回は必ず防災訓練を行っている。	事前計画を心がけ、消防署の方に来ていただくなど、内容が深い訓練にしていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		虐待防止委員会での研修が定期的に行われている。	職員一人一人の積極性もあるので、外部研修も並行してキャリアアップに繋げる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	88%	12%	契約時に身体拘束の同意書をいただき了承を得ている。	もし身体拘束を行った場合は、保護者様への対応を丁寧に对应していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	88%	12%	アレルギーがある児童は全職員で周知している。医師の指示書が必要な児童は今のところいない。	アレルギーへの意識を高め、すぐに対応できる体制を作っていきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		日々のヒヤリハットは必ず共有している。	ヒヤリハットが起こらないことを目標として支援にあたっていく。